

ラットの血圧上昇抑制におよぼすギャバロン茶分画液および茶成分の影響  
 ○大森正司、齋藤ひろみ、田村朝子、矢野とし子\*、津志田藤二郎\*\*、  
 村井敏信\*\*\*、深津修一、岩浅 潔\*\*\*\* 大妻女大 \* 目白学  
 園女短大 \*\* 食総研 \*\*\* 農研センター \*\*\*\* 農水省野菜茶試

「目的」食塩を負荷させる事により上昇する血圧もこのギャバロン茶によって抑制され、それはNaの排出促進による、という事が明らかとされた。このギャバロン茶の主成分であるγ-アミノ酪酸(GABA)がギャバロン茶に含まれる他の如何なる成分と相乗的に作用するのか、また取り込まれた後、どのような機構により血圧上昇を抑制するのか、その詳細については不明のまま残されている。今回はギャバロン茶浸出液を数種の溶媒で分画し、各可溶画分を除いて血圧上昇抑制試験を行った。またギャバロン茶水溶性成分との相乗効果を試験し、知見が得られたので報告する。

「方法」ヘキサン、MIBK、ブタノールで順次分画、各可溶部分を除いて試料液とした。また、ギャバロン茶浸出液を活性炭で脱色(ギャバロン水と称す)し、本液を用いて茶水溶性成分と混合、同様に試料液とした。これら試料液を用いてSHRに給与、血圧上昇抑制試験を行うと共にアンジオテンシン変換酵素活性(ACE)への影響を検討した。

「結果」①溶媒可溶画分を除いた区では、いずれの区においても給与2ヶ月で、対照区との間に有意に血圧の差が認められた。②ギャバロン水および茶水溶性成分(糖類、たんぱく質等)との相乗効果を試みたものでは、いずれの区においても対照区との間に有意の差が認められたが、特にSucroseの効果が大きかった。③ACEへの影響を検討したところギャバロン茶浸出液およびその成分により活性が抑制された。